

七 持続のエネルギーその一 (S四〇・夏ロング

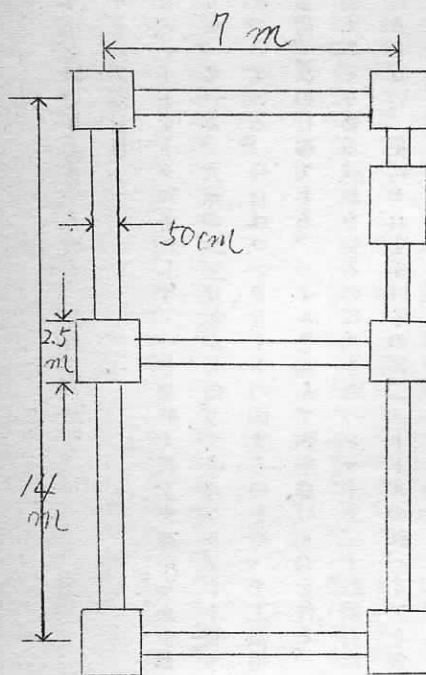
キャンプ七〜八月

夏期ロングキャンプ初日

今日からいよいよ夏期ロングキャンプ。今夏は八月中旬に行なう後期のキャンプと合せて十二日間のロングキャンプを二回行うことになっている。七月の上旬から始まったこのキャンプはまだ梅雨が明けきっていない。仕事の方は週末キャンプで柱の下の穴堀(六ヶ所)及び柱を結ぶ地中バリの溝は掘られており、その穴に握りこぶし大の栗石を入れ地中ための仕事から始まった。トラック一台分の栗石を一輪車で運び、穴にほりこみ、かためることは仲々大変な仕事である。

キャンプ三日目

掘られた基礎は図の如く六本の柱と便所と柱と結ぶ地中バリの分でその底に一面に栗石が敷き詰められている。



今日は栗石の上に厚さ約十センチの捨てコンと柱の部分は五十 cm を打つ日である。この工事で生コンが入ってくるのは始めてだ。朝早く朝食をとり全員予定の八時をまっている。スコップや一輪車の手入れも完了、仕事の前の緊張感がただよっている。

梅雨のために建造地に通じる道がゆるみ池の側は大型車は入れそうもない。生コン会社に連絡をつけ一トン積み的小型車が約二十台くることになっている。八時を過ぎても生コンはこない。女子キャンパーに阪奈道路まで迎えに行ってもらい。

その間出勤前のお茶を一杯。久しぶりに充実した気分だ。

突然「生コンが来たよ」の声、あわてて外にとび出す。水色の大型の生コン車がしずしずと入ってくる。これは怪しいと走って行くと生コン車の運転手「ここが団地ですか。私は団地工事に運んでいるのですが、この女の人が道のまん中で手を振っているので止まるとコンクリートはこちらと無理矢理つれてきたんですよ」慌てて行先の伝票を見ると全く違う。車も黄色と聞いていたし第一会社の名前が違う。平謝りで帰ってもらい。急いで生コン会社に電話をすると、少し遅れたが今出発したとのこと。そのうち八時半になって黄色の生コン車現わる。全員かんの声を挙げてスコップ片手に飛び出す。何となく身振いがする。小さな車と思っただが一台のトラックから一輪車に約三十杯。一台分とるのに約四十分かかる。二十台が今日中に出来るかどうか心配になる。声をからしてはっぱをかける。昼食も握り飯で全員交替でとる。暗く

なつた七時過ぎようやく終る。全員ぐったり。

キャンプ四日目

昨日のハードワークにも拘らず、一仕事終えに充実感からか全員張り切っている。九州の大正炭鉱から借りてきたヘルメット姿も板についている。今日はコンクリートの固まるのを待って工事場は放置。次の仕事である。パネルを組んで鉄筋曲げの台を作る。

直径十九ミリある鉄筋を切るのに大きなハンマーを二十数回打たねばならない。更にそれを曲げるのに二メートルの鉄パイプを使って二人がかりでやっと曲げている。男女が組になって曲げると能率がよいのはどういふことか。この太い鉄筋が六本の柱に各十本づつ。それに地中バりに柱の間に平均十四本合わせて二百本。これに十三ミリ及び九ミリの鉄筋が数多く組み合わさるのだから大変。配筋図面を片手にうろうろ。全く始めてのことで無我夢中。足場組みも何しろ生れて始めてシノなる名前を聞いた人ばかり。しかも予算の関係で完全に組むのに必要な量の約半分。これで組むのだから大変。

キャンプ八日目

昨日のオープンデーで全員つかれをとってさっぱりした顔。足場もすでになんとか組んだ。柱の基礎と一階の柱の鉄筋がニヨキニヨキ立ち並ぶ。ようやく建築現場らしくなってきた。数米であるが、この地に建てた最高の高さで喜びが身体の中を走る。地中バリや便槽の配筋も遅まきながら進む。

一方金重が中心になって夏の二つのキャンプの間にトラックで西日本を回ってビラや座談会をやりながら募金に回る計画が着々と進む。工事に忙がしくあまり手伝えないが、それぞれの人達が色々の方法を考案実行していくことは良いことだ。

キャンプ十日目

配筋と仮枠が完成して今日二度目の生コン打ち。二度目であり全員落ちついたもの。しかし今度は前回のほぼ倍に当る四十m³である。パネルで一輪車の道をつけたタンで流れ道をつけ要領よくなつて着々進む。夕方五時過ぎにはあつてなく全部終る。キャンプは後一日余あるが、ワークはここで切りが良いので止めて後片づけをすることにする。

八月後期キャンプ初日

前のキャンプの最後に打ったコンクリートはもうすっかり固まっている。まずその仮枠をはずす工事からだ。地中バりがヨーカンを切ったようにあらわれる。ぐらぐらしていた柱の鉄筋も基礎が固まりびくともじない。便槽は大きな水溜の如くぽっかり口をあけている。今回からは柱の枠作りだ。六十センチ角の柱が六本。巾六十センチ、長さ三米三十の板を作るのだ。八十センチの角材を三十センチ毎に横におきその上に板をのせて釘を打つ。この大きな板を二十四枚作るのだ。ハリの関係で大きさはいろいろある。紙切れに注文の大きさをかき、順次鈴木（同大二年）辻義一（阪大二年）等にわたす。

キャンブ三日目

キャラバン隊が三十万円の募金を集めて帰ってくる。ますます意気上る。

大きな四枚の板を組み柱を囲う。資材を節約して板は薄いし角材も少し細い。外からしめる太い角材（バタ角）は一面に二本ずつで一本の柱に八本必要だが足場の短い丸太一本で代用する。柱と柱を結ぶハリの底を長さ六メートル四十で巾五十センチの長い板を作りわたす。下から四本のバタ角で支え釘でとめるとしっぺりする。釘は本来はなるべく使わず、使っても枠をはずす時はずしやすいようにするべきであるが、枠材の作成が不正確である上、節約しているから、ところかまわず太い釘をガンガン打ってとめている。後のことなど全く無視。

キャンブ五日目

柱も六本とも板囲いが出来、柱と柱を結ぶハリの底も完成し、その上を歩けるようになった。地上三米五十センチの高さを歩き回ることはそう快だ。ハリの側面の板も着々出きる。全員馴れてきたようだ。

キャンブ九日目

天囲の枠組も順調にいつている。バタ角で支えながらパネルを敷いていくのだ。バタ角の長さがたらないから三月にこわしたブロックの破片をもってきて台にしている。地面の上はバタ角が林立し天井にパネルがはられ日陰になりいよいよ建設進行の感じがす

る。ベランダのヒサシの分もぐっと出っぱり、建物が大きくなつたような気がする。

ハリの鉄筋の細工も始まったが、前回の経験の為か要領よく出き上る。天井スラブの九ミリの鉄筋など一打で簡単に切り、片手で軽く曲げている。一年生の海野（京大工一）などはどこからみても完全な土方だ。自称インテリ土方も全くインテリの臭いはしない。この分ではキャンブの最終日にはコンクリートが打てそうだと思い、生ゴン会社に連絡する。OKをとりほつと一安心したとたん思い出した。どうして三米五〇センチの高さにコンクリートを上げるのだ。今まで全く考えていなかった。生コン打ちは明々後日タワーなど借りられる筈はない。約五十立方のコンクリート、バケツに約三千杯とても持ちあげられない。どう考えても処置なし。そのまま寝てしまふ。

キャンブ十日目

全員張切って仕事をしている。パネルが古いため、穴があちこちにあっていいる。苦肉の策としてパネルの上にセメント袋の残りを敷きその上に鉄筋を張る。

しかし、こちらはコンクリートの運搬で頭が痛い。現場をうろうろして考える。上にあがったり降ったり。上に上ってふっと前を見ると、畑をへだてた五十メートル向うの道に立っている子供が自分と同じ高さにいる。そこは大型生コン車がそこまでしかはいれない所ではないか。ここに橋をわたせば真直だとひらめいた。

出きる出きないは問題外だ。これしかないのだ。すぐさま走って畑の上に橋を作ることを見山日元さんに許可を得て行く。快諾を得る。山上（阪大文三）と二人で早速橋を作り始める。目くら減法に足場丸太を運び片端から番線でしぼり道に向かって前進、また前進。丸太が足りない。やむを得ず、建物の向う半面の足場をこわさせる。全く無茶だが、やむを得ない。三時間後には向こう側に達し、パネルをたてに並べ半日で橋は完成。橋の中央は地上約五メートル。全員高所に馴れたが、安全の為橋の補強と途中で一輪車が交互出きるところを翌日するように山上に頼む。気がつくとすでに夕方。しかし一安心する。あわててスラブを見にくと、手際良く鉄筋を組んでいる。

キャンプ十二日目

再びコンクリート打ち。三度目だが、今回は高い橋を渡って多量のコンクリートを打つのだ。昨夕、最後の鉄筋検査し準備OK。大型のダンプが来る。全員驚きもしない。数名のキャンパーを仮枠の上の見張と補修、運搬に十名の男子キャンパー。橋の中央の交叉点には、三日前に鉄筋の端があたり、足に数針のケガをした東京のキャンパーが白旗と赤旗をもって頑張る。八時いよいよ開始。順調に進む。柱の中にコンクリートを流し、上から女性キャンパーが長い鉄筋でつついて気泡を出す。奥の柱から順次入れてハリにも入れる。仮枠の下はギンギンししみ水がしたたる。上ではヤーヤーガヤガ大きな叫ぶ声が聞えてくる。ワークが軌道に

乗り十時過ぎのジリジリする夏の太陽をさけ、片隅みで茶を飲んで独りニヤリとする。突如、福田の大きな声「破れたー」不思議に慌てなかった。くるものが来たといった感じ。ゆっくり歩いてその声の下の方に行くと、東南隅の柱が破裂してコンクリートがはみ出している。暫時見てからとにかくコンクリートをこの柱に入れるのを中止させハリに入れるように言いつけた。破れた柱はびくとも動かない。修正は困難。止むを得ず、その上から残っている短い足場丸太を集めさせ上から番線でぐるぐる巻きしめる。他の五本の柱も急拠同じ工作をする。そして再びコンクリートを入れるのをOKするまで約一時間。無我夢中。ほっとしたのもつかもま今度はハリからコンクリートがゴーと落ちてきた。下に居た山上は頭からかぶっている。ハリを支えているのを資材節約で本当は二本の支柱が必要だが一本でしていたため中心がずれると傾いてすきが吹き、落ちてきたのだ。しかし今度はゆっくり補修させる。しかしこれからその他のハリや天井を午後コンクリートを入れていくとどうなることやら、少々不安になる。

夕方、なんとか乗り切れる。全員くたくただが最後まで頑張った。大きな建物の陰で、夕日にそりたつ建物は感慨深い。翌日ただちに橋をはずして片づけて今夏のキャンプを終る予定。

八 持続のエネルギーその二（S四〇・九十二月）

九月中旬

キャンパーは殆んど試験のため、静かになる。だが試験のない同志社のキャンパーが中心になって九月末にコンクリートの仮枠を

はずすキャンプを計画する。

十月中旬

試験も終り、秋のキャンプ再開。すでに九月に同志社の佐竹（文三）鈴木（文三）山田（文三）らが中心になり仮枠がはずされ、巨大なコンクリートが姿を見せている。

今日からは二階の工事の開始。一階と殆んど同じものを二階に作るのだから高さの相違以外は同じことだ。柱の枠板は一階に使ったものを修理してそのまま使う。要領よく、週末のキャンプでも相当進む。

十月末日

キャンプは秋のセミロング、と言っても十日間。あるだけの足場丸太を使って足場を組むが、数が足らず屋上まではとどかない。今後の工事が少し危険だが、金がないので口を閉じるしか法はない。それでも最も高い足場棒の先端にどこからもってきたか緑の安全旗がひるがえている。柱の枠もすらすらとくみ上っている。一階の失敗にこりて、古材やこわれたパネルを用いて補強に懸命。今度は大丈夫だろう。勝手知ったる仮枠工事。着々と進む。

十一月二日

仮枠は殆んど完成。パネルも古くなって、いたる所穴だらけ。それでも結構一階よりは上手くできている。見あげるような高さになり、いよいよ建物の偉容は空にそびえたっている。初冬の青い空に嬉しさがこみ上げてくる。鉄筋の段取になって全員張切っ

ているが再び難題。コンクリートをどうして上げるか。もう橋は駄目、道路より更に三、五米高くなっている。どう考えてもタワーリフトより手がない。夜、湯浅と相談。借りるにしても良い名案は出てこない。

十一月五日

鉄筋の方は着々と組み上る。今日は殆んどコンクリートの方は未だめどつかず。それに今日もう一つの難題、共同設計会社の設計士が見にくる。配鉄が曲ったりして、工事の最終責任者としてもう一度組み直しを要求される。このままコンクリートを打てば責任はもてないと言われ、今のキャンプでコンクリートを打つことはタワーの問題と合わせて難しくなる。

十一月十日

湯浅がキャンプ以来現場に残り、大倭の矢追家磨さんと共に働きタワーの借入れの件をまとめてくる。本当に御苦労さん。鉄筋については今月に臨時のキャンプをやって手直しするより仕方ない。その後度々湯浅は共同設計と連絡をとる、と言うより謝まっている。僕は逃げてしまっている。申しわけない限り。

十一月二十五日

ようやく、何とか配線の手直しが終り、コンクリートが打てるようになった。次週の日曜日に打つことにし、キャンパーに「お知らせ」発送を徹夜でする。生コンの会社にも連絡がつく。

十一月二十九日

二十六日来、借りてきたタワーを建てる仕事をして昨夜遅くまで電燈の光でやっと立ち上る。二本柱のタワーで足場樺の補強が大変だった。再び裏の方の足場ははづされてしまった。ディーゼル発動機も燈油も準備完了した。今朝は寒く、霜が白く降りて、キャンパーのはく息も白い。発動機は仲々始動しない。鈴木や湯浅や辻(義)など腕力のあるのが次々と試み「プラグが駄目なのと違うか」「馬鹿言えディーゼルにプラグがあるか、お前それでも工学部か。」とやいやい言っていてやっているとかかる。がブスブスとすぐ止まる。しかし勇を得て何度もやると少しづつかかり易くなった。生コン車がやってきた。全員益々慌てる。やっとかかる。白い煙をはいて。大型車が一度小型生コン車に移して、それがタワーの側までくる。そしてトタンの髓を使ってタワーのバケットに入れる。三分の一位で止めてそろそろ上げてみる。力がない。二、三米上ると止まりかける。慌ててブレーキをかけ、エンジンをふかし、再び上げる。また二、三米。これを数回繰返してやっと屋上まで上る。この調子で約三十分、やっと三分の一杯ずつ三回。とてもじゃないが今日中には出きない。それでも元氣を出して精一杯やってみる。ますます力は弱ってくる。十時半ついに空のバケットすらゆるゆるとしか登らない。これでは一日中やっても全体の十分の一も上らない。十一時、ついにあきらめる。後のことは考えていないが、出きないものは仕方がない。

暗い気持で帰る。再び矢追家磨さんに相談に行く。夜、大和郡山の福井建設に電話してもらおう。別のジーゼルが借りられる話がつく。勇みたって来週の日曜日に再びやることにきまる。

十二月五日

昨夜遅く借りてきたディーゼル、前回より相当大型で車に積む時もおろす時也大変だった。大きな力がかかる為、固定するのも一苦労、朝からやってようやく試運転。冬の寒い朝エンジンはやはりかかりが悪い。昨夜借りに行った時は簡単にかかったのに。それでも三十分程してようやくかかる。二度三度かけている間段々にかかりやすくなる。キャンパーの数は十数人。少々不安だが仕方がない。八時半、生コン車がくる。

三分の一杯のバケット、上まで一気にすーと上る。拍手が起る。勇みたって二、三杯と上げる。突然エンジンがストップする。あれども何度やってももう二度とかからない。生コン車は一台一台もすでに四台きている。三十分、二時間ビクともしない。生コン車の運転手に叱られる。遂に一台の生コン車は道路にコンクリートをぶちあげて帰ってしまふ。二時間後午前十一時半ついにあきらめる。生コン車には謝まって道路に徹して帰ってもらおう。放心状態。タワーもすでに八日間。昨夜も返済の電話があつて、無理矢理今日まで待ってもらったのだ。八方ふさがりとはこのこと。やむなく二日後に行なうことにしてタワーの借用無理を言う。大いに叱られたが、こちらがもっていかないのだからどうしようも

ない。チーゼルはそれまでに何とかしようと思ひ建設にもう一度かけ合うことにする。

十二月七日

エンジンの発火よがよいようエーテルを使い。簡単にかかるようになった。今日こそは張切るがキャンパーは十二、三名。KPに二名割り当て後の十一名は全員非常配置。こうなれば男も女もない。九時過ぎ生コン来る。いよいよ三度目の正直。慎重に始める。三分の一程入れて上げる。エンジンの運転は独占して何と言われようと絶対他人にまかせない。タワーの上では金重が張切っている。二杯、三杯、仲々快調に上る。三十分、一時間、いつのまにか荒くなり、バケットに四分から五分六分七分と増加している。それでも上る。タワーがきしみだした。冬の日短かい。五時には暗くなる。時間とコンクリートの量はかり頭の中で計算する。どうしてもあせる。上では少い人数で大変だろうが容赦なく上げる。金重や辻が「ストップ、ストップ」と叫んでいる。こちらは下で上のは知らない。上った量と時間だけしか念頭にない。聞こえない振りをして上げてしまう。昼食も何もない。ぶっ通しだ。KPの女性はお才なく生コンの運転手にお茶とお菓子を出している。運転手はごきげん「女子大生に茶を接待してもらうこんな工事現場は始めてや。」三時過ぎようやく四分の三までいく。何とか目途がついてほっとする。五時、もう少し。六時、真暗だ。百ワットの電球がニコ寒々と光っている。その中でいよいよ最後。

七時、やっと終る。「ワー」と全員かん呼。直ちにタワーの解体にかかる。翌日学校のある数名のキャンパーは帰る。残ったのは男ばかり六人。寒くて空腹で疲れて何も言わない。黙々とはずしている。九時半やっと解体。ドロドロの湿った作業衣が寒い。足の先の感覚はない。涙が出そうだ。再び大倭の人の世話になって車につんでかえしに行く。タワーが終ってチーゼルの積み時は十一時を過ぎていく。大和郡山まで。十二時過ぎ、完全にへたって、オート三輪の荷台に四人、シートをかぶって動かない。酒屋もしまっている。ようやく帰ってきたのは一時過ぎ。しかし食べるものは何もない。ひざ小僧をだいて六人車座にすわってぼつ然としている。仕事を終えた充実感も、空腹と疲れと寒さでどこかへ行ってしまった。外には寒夜の月が冴えわたっている。六人が完全に一つの心でしんみりと、長いキャンプ生活で始めての印象深い夜だ。

十二月十三日

ワークは切りのよい所で終った。今年はこれまで。次は金だ。大きな借金をかかえて、年末の募金、ダンスパーティーと計画が沢山。頭張って下さいよ。

次のワークは三月のセミロングキャンプ。仮枠をはずした三分の一は終った。次の仕事は壁のブロック積みと階段だ、と設計図をひろげると「あー」非常階段が間違っている。図面では二階の廊下のつきあたりから出て降りるようになっている。反対にしたの

だ。ベランダから。「えい、面倒だ。ベランダからつけろ」と独り腹にしまっってしまう。

九外装から内装へ（S四一・二月～十二月）

昭和四十一年二月中旬

再び、早く試験の終わった同志社のキャンパーが中心になって仮枠はずしのプライベートキャンプ。五日間で要領よくはずしてしまふ。巨大なコンクリートの塊があらわれる。感慨深いいつまでもながめる。

三月中旬

セミロングキャンプだ。ブロック積み。一昨年の夏一年生できて一生懸命ブロックを積んでいた山上も今や専門家はだしまでになった。着々とつんでいく。一方水本（阪大工三年）を中心に、階段二ヶ所と便槽の仮枠工事が始まる。

三月下旬

ブロックも一部は四段五段と積みあげる。仮枠工事も着々進む。キャンプ最終日の前日にはコンクリートが打てそうだ。後のことは水本にまかせて上京する。

三月三十日

東京で愛生園の鈴木重雄さんに会う。まず三菱セメントへ行き、大沢専務に会う。セメントの寄贈を受ける。次いで住友軽金属の桜井常務に会う。窓枠について話をする。窓枠はサッシという

が、木製、鉄製、アルミ製とあり、値段もこの順に高くなる。鉄筋コンクリート建であり木製は考えていなかったが、鉄製とアルミ製とはアルミの方が約五割高になる由。勿論この会社はアルミの会社で鉄製はない。五割高くなるが鉄製の場合塗装が必要で保存も年に一度はペンキをぬり替えねばならない。専門の人に来ていただいて図面を元に検討すると鉄製では市価で総額約四、五十万円、アルミ製なら六、七十五万円程度である。全部寄附は難しく、桜井常務の話では鉄製ならコネはないが、アルミなら鉄製程度の値にするといわれ、少し考えたが、その好意に甘えることにした。詳細は後日大阪の本店の人と話をすることにした。つづいて三機鋼管に行く。鉄パイプの会社でベランダ用のパイプを頼む予定。この件はすでに大阪で調べたが、材料が八、九万円、加工費が六、七万円一度は鉄工所に頼むことも考えたが、金の面で結局沙汰止みになったものだ。話をしているうちに材料パイプだけ寄贈して頂けることになった。しかも九州の工場から奈良宛に直送して頂ける由。誠に有難い。丸の内をぐるぐる回って次いで新橋の三井物産に行く。斉藤非鉄金属部長に会い窓ガラスを頼みに行く。これもトントン拍子に上手くいく。大阪のセントラルガラスより寄贈がきまる。全く収穫多い一日であった。鈴木さんのごじん力、感謝に耐えない。

四月十日

現場が気になり見に行く。ブロックは全体として平均三段。二割

程度。階段と便槽はコンクリートが打ってある。階段は随分と企んでいる。途中で段が怪しくなり、右端は十三段、左端は十二段。一体どうなっているのやら。逆にした非常階段もそしらぬ顔をして出きている。思わず苦笑がこみ上る。春の週末でビッチを上げようと意欲が湧いてくる。

四月十九日

春の第一回週末キャンプ。階段の仮枠をはずす工事。入り乱れた材木がコンクリートに埋り、はずすのは大変。それでも結構階段の形はなしている。ブロックも少しづつ積む。外壁のすべてと間仕切りだから大量のブロックが必要。気はあせれども、仲々進行しない。

五月上旬

春のセミロング、このキャンプではブロックを出さるだけつむことと、一階の床のコンクリートを打つ予定だ。ブロックも五段以上になると足場がある。ブロックを二、三コ積んでその上に板を渡す。危なっかしい足場だ。時々つぶれる。一階の床は地中バリが相当高くなり、土盛をせねばならない。土は余った時には処置に困るがなければならぬ。仲々困るものだ。廃土を買えばトラック一杯で二、三千円はかかる。どう考えても六、七台分は必要だ。再び大倭の人の世話になる。ブロック工場のトラックで夜に学園前まで土をもらいに行く。二台、三台と運んできて埋める。よくはいるものだ。深夜作業でどうにか入る。

キャンプ四日目

土の入った床に栗石を敷きつめ、その上にコンクリートを打つのだ。栗石の手配を再び安宿苑の苑長さんに頼む。ブロックは少しづつ積んでいるが、何しろ沢山ある。一気にやる訳にはいかない。ようやく一階の七割。全体では約四割だ。便槽は二重式の臭気抜きをついた最新型だ。が、そのためにもう一度コンクリート工事をせねばならない。その時、便器の穴を定める為便器が必要だ。思いついたとたん、側に居たのは長野勝（阪大工三）だ。早速つかまえて大便器を二コ、小便器を二コとにかくどこからか買ってきて奈良へもってくるよう頼む。便器をリュックに入れて電車に乗る様を想像して思わず楽しくなる。

床の手配はなっと思ったが、そうはいかない。水道、ガス、下水の配管をせねばならない。これは素人が工事してもれば大変だ。夜になって図面をもって、これらの工事一式について、尼ヶ辻にある飯建設に相談に行くことにきまる。

キャンプ七日目

配管工事の日程を出してもらいよう交渉はできた。栗石はきたが入れることは一時中止。全員ブロック積みにかかる。

五月中旬

工事が細かになるにつれて多種の資材が要るものだ。金は十万円の現金と四十万程の借金だ。これでも資材をつぎつきと集めねばならない。

屋上の防水工事を考える。本を買ってきて、研究する。実に多くの防水剤と工法があるものだ。大阪府庁の辻の紹介で江南商店を紹介してもらい、大阪の西の方の同商店へ行く。防水剤はアクリル系の塗布工法にする。一週間後にとりこくる約束が出る。

五月下旬

配管工事の見積りがくる。総計二十五万円だ。とても大金だ。とにかく今金のない段階ではガスと下水の配管だけこちらですることにする。水道は頼もう。図面を見て、パイプと下水の管を算出し大阪へ出かける。ガスパイプは切断とネジ切りは交渉してもらうことになった。下水管は土管で四十本を買ってきた。トイレの小便用はビニル管。その他に屋上の排水のドレンや床の排水のドレンなど沢山必要だ。全部買い集めて帰る。

サツシュの話に大阪の住友軽金属の本社へ行く。図面を見せて相談。成可く規格品を使うようにする。二階の廊下のつきあたりは非常階段の戸であるが階段が逆になった為、窓にする。トイレは随分大きな窓にした。玄関だけは別注の扉だ。その他は規格品で大体揃う。

六月中旬

週末キャンプでブロックは僅かづつ積んでようやく五割に近くなる。長野は便器をもってくる。仲々頼み甲斐のある男だ。防水剤もきた。夏のキャンプの仕事は大体出きた。完成のメドは未だ全くつかない。

七月夏のワークキャンプ

再び炎天下のキャンプ。屋上の上塗り。水をまいてみると、表面は凸凹で水は一方方向に流れず中央に溜る。これを平らにして縁を盛り上げる仕事だ。下でセメントを練ってバケツで屋上に持ち上がり細工するのだ。全く暑い工事。下ではブロック積、二階と一階と両共、床ではブロックの工事から借りてきたパイプレンヂで配管工事。全部バラバラの工事。水道の配管は蔽設備から人がきてビニルパイプ工事をしている。

キャンプ五日目

少しづつ家らしくなる。屋上の工事も一段落して床の配管の終わった後へ桒石を敷き、コンクリートを打つ準備にかかる。トイレと風呂の床は大いに面倒だ。図面片手にやるがどうしてやっていか分らない所が随分ある。ブロックは二階も半分位積んでいる。今夏もキャラバン隊が東北一周に出かける。福島（阪大工二）や北辻（阪大工二）は忙しそうに準備している。

八月キャンプ中

いよいよ床のコンクリート打ちだ。何度も慣れて、全員裕然としている。一年前とは大きな違いだ。一輪車で要領よく運び流しこんでいく。ホールの床から廊下、台所、管理人室、便所、風呂と進む。三時過ぎあっけなく終る。学生人夫も慣れたものだ。

次は二階のブロック積みと屋上の防水剤だ。防水剤は牛乳のような白色の液でハケでぬって、太陽の光でその溶剤が蒸発し、後

に挽水性の膜ができる。女性の用いるバックと同じ原理だ。その上にモルタルをもう一度ぬるのだ。

翌日

相変らずカンカン照りの天気だ。屋上では裸足になって防水剤をぬっている。始めは処女の如く、途中からカンを御し防水剤を流し、ハケでザーと流すようにしてぬっている。炎天下で片端しか乾いていく。

夜、次の段取を考える。このキャンブでブロックは積みあがるだろう。次はサツシュを入れるのだがこれも手配はついている。いよいよ内装の木工事だ。柱や床板などどう見積っても三十万から五十万だ。支払のあてもないのに買うことが出来るか。尼ヶ辻の瀬川材木店もすでに十数万円の借金がある。再び大倭の人に相談する。大倭によく出入りしておられる尼ヶ辻の田中材木店に相談していくことになる。

八月十日

ブロックは殆んど完成。最上部のブロックと天井の隙間にモルタルをつめる工事にかかっている。高いところで不安定を恰好でせまいところにモルタルをつめるのは意外に厄介な仕事だ。樋口は下からモルタルのボールを作って投げつけている。半分位は落ちていく。相変らず口は達者だが仕事はできない男だ。

一、二年生は真面目になっている。キャンパーも仕事の方は一二年生が良い。三、四年になると横着だ。樋口も一昨年のセメン

トを喉につめたころは純情でかわいらしかった。

夜、四人で大阪へ行く。田中木材についたのは八時を過ぎていた。図面と資材の算出書を出し話をする。ころよく承諾していただける。やっと一安心。

九月上旬

田中木材より、柱、廊下のラワン材、角材が届いていた。一階のホール中央に山積だ。サツシュの取付け工事を早急にするように頼みに行く。サツシュは近々入荷の由。取付けの職人も都合つき次第来るとのこと。

木工事と共に進めねばならないのは電気工事だ。共同設計の紹介でとった工事見積りは五十五万円。とても手が出ない。阪太の電気工学を出て神崎製紙に勤務して会社の電柱に登っている賀好に手紙を出す。

十月上旬

木工事の為に電気カンナを買う。山上の紹介で大阪の商店より原価で買える。京都からオンボロのセドリツクにのって名神を行く。今夏北海道の信号のない岩見沢で免許をとって街を走ったことのない湯浅が運転手。危険の上ない。やっと狭い道を通ってたどりついた店からカンナをもらって帰り道、質屋の壁に車をする。さんざん謝って奈良へむかう。

内装工事に入ると、各室の戸が必要だ。その寸法を知らねば工事はできやしない。かつてのキャンパーで現在の高橋考一（丸紅）

夫人である高橋三和子さんの実家が和歌山で建具の製造をやっておられることを聞き、早速のりこむ。図面を渡し、凡その見積りをもらうよう話をしてくる。

十月中旬

建具の見積りは約七万円。しかし、和歌山の工場の倉庫に古いものがあり、適当ながあればそれを使えと言われ、早速、再びオンボロセドリツクで和歌山にむかう。京都から四時間。午後一時過ぎやっとつく。図面片手に使えそうなのを片端から印をつけていく。図々しくなって、図面になくても将来管理人住居を建てる時必要だなどと理屈をつけ数多く印をつけて出してくる。数十枚の戸を集め終ると二、三日後大阪へ行くからついでに奈良に届けるといわれ、すぐ図々しく奈良の地図を書いて渡してくる。その後大いにごちそうになり、夕方金剛山回りで帰路につく。

十月中旬

賀好より返事くる。彼は大学へもどる為に七月に会社をやめ、目下大学院の試験の勉強中とのことで手伝えない由。そのかわり材料店を紹介してくれた。再び大阪に行き、ケーブルや管やジョイントなど配線材料だけ全部揃えて買いに行く。奈良へつくとサツシユの取付工事が始まっている。二人の職人とキャンパーが数人ついて手伝っている。大倭で借りた溶接機で接続していく。一階の隈では仮枠が破れてエンタシスになっている柱をけづっている。少しやると手が痛くなり、ほうり出し、その内誰かが又やっている。

海野は一、二年を見つけてはこれをやらせているが人便が荒い男だ。

十一月上旬

サツシユの取付けは完了。ようやく家の様になってきた。このセミロングキャンブはサツシユの周囲の隙間にモルタルをつめることだ。狭い所や、やけに広い所や、つめるのは仲々大変な仕事だ。その他細かな仕事には、屋上の雨水の排トユの為太い塩ビの管をとりつけねばならない。プロバン小屋のブロック積み、階段の補修など。それでも白いスキが満開の秋の日、ゆうゆうと仕事をやっている。大きな声は、海野現場主任だけだ。

十一月中旬

カンナ、ノコギリ、ノミ、カナヅチ、金差と道具を買い集めて、いよいよ大工工事だ。図面片手に頭の中で構造を考えながら柱に鉛筆で印をつけ、切ったり、ノミで穴をあけていく。まずホールと台所の仕切りからだ。三センチ角の穴が四センチ角になったり上の方へ五ミリ程ずれたり、ついにノミの刃を折るものまで出てきた。それでも今までの経験から最初はどうなることやらと考えても結構その内なんとかなるから、大して心配もしない。ピーピーと大きな電気カンナの音。キャンブの財産としては始めての大きなものだ。のどかな秋の一日。

十一月下旬

週末キャンブやその間の週日の私的キャンブで大工工事を少しづ

つ進める。台所とホールの仕切りは何とかなる。次いで巾二十センチ厚さ一、五センチのラワン材を使って各トビラの大きさにあわせて四角の枠を作り、ブロックの壁にはめていく。サツシュ取付けで習い覚えた木のクサビを作り、ふりこを使って垂直と水平を出してはめていく。管理人室、風呂、便所、台所とつぎつぎはめていく。三日間でドアは終りいよいよ二階の工事。柱だけでも二十数本。中心の押入れのところから始める。天井のハリに埋めておいた筈の木レンガがなかったり、とれていたりしてコンクリートに止めるタイロツクなるもので木片をハリに止める。このコンクリートに穴をあけるのに手廻しのドリルではとてもあけられない。やむを得ず、二万数千円をはりこんで電動ドリルを買う。

十二月中旬

いよいよ今年も終り、キャンパーは街頭募金に頑張っている。キャンプも合間をぬって大工工事にとりかかりようやく柱だけは立てる。しかし天井のハリに合わせて柱を立てた為柱は出入りが激しい。一部は傾いている。二階廊下の向う側にある倉庫は、作っていくと端のところで窓が図面より大きすぎて、くいこんでしまふ。やむをえず図面を変更して途中で倉庫をストツプする。このため廊下の端におかしなスペースが出た。もう何が起つても慣れてしまつて驚かない。

まあ、今年はこれで終り。ダンスパーティーと募金の成果を期待して来春を待とう。

十完成の青写真提出 (S四二・三月・七月)

昭和四十二年

三月、卒業生追い出しコンパの日

工事は二年間やって、やっと全体の五分の三進行。この調子ではまだ一年以上かかりそうだ。しかし、これから完成の青写真と日取を適当に定めて、それを努力目標にしようと思える。別に目当てがある訳ではないが、何時でもよい。少々無理と思われる位の日が良いのではないかと思う。ふと思いつくと、七月二十九日が僕の誕生日だ。今年の七月二十九日にしよう。後四ヶ月しかない。とても無理だろうが、出きなくてもまあ良い。どうせアドバールンなのだから誰も本気にしないだろうが、これを機に完成について全員が考えてくれれば良い、と思ってコンパの時二、三人の人に冗談まじりに言ってみた。一笑に附する者、自分の誕生日を言いだす者、現実的に来年の春と言う者。まあ、手応えは充分。当分この話をあちこちですることになろう。

三月二十日

今日から再びキャンプだ。三菱セメントより寄贈してもらったセメントがあるから、砂を買って外壁ブロックのモルタル塗りだ。混合する防水剤も手廻し良く買ってきている。長期になった為、足場がたがたで危険この上ない。組直すことにする。足場組みは慣れているが、左官工事が出るものかどうか危いものだ。と

思っている内に、向う側では、「やってやれないことはない」と歌っている奴がいる。思わず苦笑する。左官に関しては一切、他のキャンパーにまかせておこう。それより他のことを考えねばならない。先ず、ペランダの手すりだ。それに内装の天井の骨組み。

三月二十五日

そろそろと外壁のモルタルは塗っている。まだらになって幾重にも塗ってゆかねばならない。大体、ブロックが揃っていないのにその上素人の左官だから上手くいく筈がない。木工事で二階をやっていると、廊下ではたと困る。階段周辺の手摺だ。全然考えていなかった。何とかしようと考えているが名案はない。歩き回っていると、ふと目についたものが電気配線の鉄パイプ。これを流用しようとしたが一寸弱い。止むを得ず、鉄パイプの中に鉄筋を入れて立てる。先を曲げて床に固定し、モルタルを巾三十センチ、高さ二十センチにして固めてしまう。窮すれば通ずる。

四月三日

外壁はきたないながらもかめっている。見かけは悪いが、雨仕舞は何とかなる。しかし金んだ柱は全く手をつけていない。これをモルタルで修理するのは大変だ。誰も手をつけない。どうしてよいやら判らない。内装は天井の基本の骨組だけは八割方出来た。再び完成式について言うが、まだまだ誰も本気にしてくれない。

四月中旬

週末キャンブが始まる。その前にキャンブ時の大勢の人間で出来ない電気配線をやってしまおうと、ニツバ、ベンチ、ドライバ、ハンダコテともってきて配線にかかる。素人工事は危険防止のため禁止されているが、電気工事の本を充分読んで後で専門家に検査してもらおうと勝手にきめてやる。図面はあるのだが、最短距離に線を引くのは仲々難しい。管理人室に主配電盤をおくから、そこから中心にスタートする。まず各室にあるコンセント。太いビニールのケーブルをはっていきながら端を出したり、切ったり。ハリに穴も何もあいていないから、ハリをわって鉄管を切ってその中へ通したり、ブロックの壁を割ってうめこんだり、仲々大変。一階から二階、玄関と配線してゆくと二百米巻きの大きなケーブル線を二巻使ってもまだ足りない。とうとう学園前に買いに行き、四日間かかってやっと今日出きた。それでも電燈用は各室の中央に線がブラリ。コンセントも線の端が出ているだけである。

五月セミロングキャンブ

外壁は仲々上手く塗れない。二度、三度と塗ってようやく何とかになってきた。このキャンブでも殆んどそれにかからねばならない。ペランダ用のパイプはずっと前に到着している。これを何とかしようとして鉄ノコの刃を数十枚買ってくる。熔接機は大倭のを再び借りることにする。五十センチ×十センチ角の鉄パイプを切るのは大変だ。寸法を合わせて二人がかりでギリギリ切っているが、

三十分はかかる。高さは適当に定め、二階の端の柱を割って中の鉄筋を出してそれに熔接しようと軋り始める。海野と桜井と共に三人でこのキャンプ中にやろうと思っている。

五月キャンプ三日目

手摺は仲々順調だ。熔接のスパークで眼をやられて、夜涙が出、寝られなくなるとおどかさねながら、ジジーとつけていく。パイプの切り方がゆがむため、熔接も楽じゃない。やっと全部つけたと思ったら、山上が大きなハンマーで一本づつガンガンたたいて検査しまわる。十数本ははずれてくる。それを再びつけ直す。又たたきよる。数本出てくる。こんなことを再三、再四繰返す。山上が憎らしくなってきたが文句も言えずつけ直す。でも何とか二日半で出きた。早速その足許を固める為にバネルとバタ角で枠をつくる。その手摺を固定するコンクリートを入れる準備をする。丁度一階のベランダの下縁や、建物の周りの犬走りを作るコンクリート打ちをやるから、ついでにやるのに都合が良い。玄關の脇には花壇になるところを先日、鈴木や山田が二日ばかりで赤レンガ百枚程つんで作ってくれている。

五月上旬

電気の配線は出きたが、螢光灯等沢山必要だ。大阪府庁の辻の紹介で十三近くの三好電気店へ行く。全部の器具では総計十五万円位になるが、支払いに相当遅れるが器具は集めて頂けることになる。一週間後にとりに行くことになり運搬は樋口に頼む。ほっと

一息。

委員会を間近にひかえ、樋口、矢部、海野らと会う。とにかく強引に七月末を完工式にしようと口説く。工事に責任をもつと不安をかくして大言壮語する。海野も同調してくれた。それにより、矢部、樋口も同調してくれた。が、内心はさあ大変だ。

五月中旬

一部に相当強い反対意見もあったが、七月三十日(日)を目標にやることになった。反対者はできるものならやってみると言った口吻に聞えた。なにくそ、と思いつながらも、不安だ。帰り際、海野、矢部、水本と共に「えらいことになったなあ」とぼやきながら歩く。とにかく六月中旬に資材の目途を金なしにつけねばならぬ。

五月下旬

三井物産に行く。前にガラスの世話になったのだ。ガラスはセントラルガラスの方に移って話についているが、まだ入っていない。今日内装の建材を頼みに行くのだ。丁度鈴木さんも来られており、共に行く。色々話をしたが非常に上手く話が進み、床のビーターから壁のボード、天井のテックス、それに新しくできた外壁ボードまであり、柱とハリにそれを使えば、きたない歪んだのがかくせる案まで出て、一式寄贈して頂けることになった。飛び上らんばかり嬉しい。

六月上旬

今後必要な資材について相談する。とにかく、どうしても現金が五十万円それに戸と蝶番に把手、ビータイルの接着剤、畳、風呂桶に釜、風呂トイレのタイル、ホールの机イス、ボードの下張りの角材を数百本、畳や押入れの板が数十坪、手摺ベンキ、襖、障子等。現金は鈔やカナヅチ、ノミ等、それに非常に長くなっている借金の一部返済、こまごましたものを買うのに必要だ。とにかく、動かねばならない。

六月中旬

現金を集める方向と資材を集める方向を考え種々の方法を編み出す。その上夏のキャンプの準備だ。

まず小口募金をしようと、キャンプのOB連中にゲキ文を大量に発送して募金をつくる。その他数組のキャンパーを募金の為に大阪、神戸、京都、奈良と走り回る。今村さんが数多く紹介して海野がそれに図々しく回る。

六月中旬

資材も色々あたる。鈴木さんも再度呼出して、きて頂く。

蝶番、把手は大阪南区の満点製作所に頼みに行く。接着剤はかつて防水剤を頼んだ江南商店、畳は積水化学へ行く。いずれも再三再四行かねばならないだろう。

七月一日

いよいよ後一ヶ月。六月は資金や資材集めと共にキャンプも週日

もなく奈良にいて、工事も進めた。海野、矢部、樋口、青谷、水尾なども七月中は足止めの宣言をする。便所、風呂に必要な白色セメントとモルタル用の普通セメントを三菱セメントより寄贈して頂けることが決定する。万歳。

それに鈴木さんの話ではキャンプに愛生園より大工さんが何日間か参加して頂けそうだとのこと。

七月十日

資金もぼちぼち集りだした。大阪の三和、大和、住友の各銀行から五万円ずつ、これは大口だ。資材も積水化学より畳が頂けそうだ。蝶番と把手も可能性大。タイルは大阪一大きい卸店へ行き、床、腰タイルから玄關に敷く大きいタイルまで市価の半額で手に入れることになった。角材や板は瀬川商店から注文して買うことにしよう。三井物産の資材も到着した。何だか嬉しくなり、できたよるに気になる。

終章 汗と涙の突貫工事―そして竣工

(S 四二・七月)

七月十三日

いよいよキャンプ。愛生園からも数名の参加者がある。大工さんは西原だ。若くて口が悪いが、しっかりしている。準備はまだまだ不十分だが、突入したらやむを得ない。西原大工が見て回って大工事は金んでいる、これでは駄目だ。一度はずしてやり直せ。と言ったが、一、一当然の話。しかし、三十日に間に合うのかど

うか心配はそれだ。間に合っても合わなくてもこれでは出来ないと言われたら仕方がない。従うことにする。

七月十五日

西原大工は手間に、水尾、大坪（立命大法二）をつけて二階の工事からかかる。

一階では山を中心風呂とトイレのタイル張りだ。愛生園の森さんや歌川さんが手伝っている。女性も手伝っている。タイルが仲々思うように割れない。外では青谷を中心にモルタル塗りをしている。非常階都の補修は佐竹だ。海野は金集めの連絡をしながら柱に外壁ボードを張っている。

七月二十日

日時は着々過ぎてゆく。三十日は目先だ。既に、矢部は竣工式の案内状を発送している。もう後へはひけない。だが一階の中はコンクリートとブロックだけだ。二階はようやく柱や床の木組が出た。リーダーには悪いが、数人は夜も仕事をして十二時から一時頃までする。風呂は買うことにした。頼んだタイル風呂は生産がおいつかないとか。やむを得ず最高級のホロー風呂の外だき式釜にする。襖と障子も注文することにした。寸法をとりきてもらった。サッシの窓ガラスも毎日すこしづつ入るようになってきた。が、まだ六割だ。三十日のことを話して念を入れて頼む。

七月二十二日

ますます仕事は激烈になる。海野や水尾らは眼が血走ってきた。

西原もつかれている。しかし「やれ、やれ」と言う以外にない。樋口のもってきてくれた古いミゼットカーが大いに役立つ。連日食料の買物と共に工事に必要なものを頼んで買ってきてもらう。「ノミ一丁、モルタルコテ二丁、釘、ネジ半打……」と。買物から帰ってくるとすぐ現場へもって行ってそのまま使う。「あのハンウチだけなかった」「ハンウチは何や」「二、三軒回ってきいたが、うちにはないいわれた」「そんなもの頼んでないぞ」「でもこの紙に書いてあるよ」「どれや、バカ、これは半ダースと読むんじや、ネジが六本のことじや」

七月二十五日

「一階のモルタルを早く塗らんか、ピータイルは塗ってから一週間はおかないとめくれてくるんで」と西原の一声。慌てて掃除してモルタル塗りだ。二階の工事はやっと八分通り出た。風呂、トイレのタイルも殆んど出きて便器は納まった。最も遅れているのが外の柱のボード張りだ。電気も奈良の工事を頼みにいって通じるようになることになった。風呂は入った。早速とりつけてタイルをはっている。もう昼も夜もない。やけくそだ。ホールの机イスも買うことにして早速注文する。

七月二十七日

西原はついに昨夜徹夜した。台から落ちてねんざした水尾も痛い足をひっぱって仕事している。二階はできてボード、天井とはれている。階段の補修をしている。午後からは、いよいよ一階の工

事にかかった。

七月二十八日

天井の骨組は六月に出きているが、その補修からだ。頭丈にしている。壁も回し木をつけている。台所と管理人室は腰までモルタルで仕上げ、上は白色セメントにすることにした。急に青谷に頼んで、モルタルを塗り始める。風呂とトイレの白モルタルも塗っている。相変らず、外の柱はやっと三本まけたただけだ。二階は畳が入った。電燈もつけた。配線工事もすみ、電気が通じた。泣いても笑っても後一日だ。

七月二十九日

今日中にやらねばならない。朝から天井のテックス、腰のボード柱のボードと無我夢中でやる。オールドキャンパーもぞくぞく集まってきた。全患協の代表者もきた。キャンプもクライマックスだ。ガラスも遂に全部入った。天井が完成した。電燈のテストもOK。壁も大体出来た。夕食も午後八時過ぎ。今夜は徹夜作業になりそうだ。夜、全員で誕生日を祝ってくれた。本当に嬉しかった。九時から全員で最後の仕事分け。辻、樋口はドアの幾番と把手つけ。西原、水尾、大坪はボード張り天井の回し縁の作成。襖、障子のはめこみ。海野らは柱のボード張りの完成。ジャン、ダンちゃんは夜の三時からビータイル張り。矢部、白石、辻征雄奥さんらは翌日の飾りつけと式の準備。吉川は風呂のスノコ作り、大坪、水尾らは夢遊病者の如く働いている。外でたき火をして、

じっとあちこち見ているだけで何もいわないのに、全員狂気の如く働いている。すでに夜の一時。こんな気持の良いは始めてだ。嬉しなみだがとどめなく出てくる。一寸でも手のすいた女性キャンパーは、窓ガラスやボードをふいてくれている。三時過ぎ、ようやく襖のはめこみ作業だ。四時過ぎ、東の空が白みかけた。全員まだ働いている。建物の外の片づけも着々とやってくれている。室の中ではタイルをはるのに手足を真黒にしている。ようやく一段落した。太陽がのびてきた。二階の電気のスイッチをつけている。七時過ぎ最後のスイッチをつけおえると急にポーと目まいがした。終わったのだ。ゆっくりシャワーをあびに歩いていく。太陽がまぶしい。